

# ヨーネ病に注意しましょう！

## ○ヨーネ病とは

牛や、羊、山羊などの反芻動物がヨーネ菌に感染しておこる法定伝染病です。汚染された乳やエサ、水、牧草などを食べることにより主に感染します。また、感染した母牛から子牛への胎盤感染も起こります。

特に6ヶ月齢以下の子牛が感染しやすいとされており、感染から数ヶ月から数年の長い潜伏期の後、主に妊娠や分娩などのストレスにより発症し慢性的な下痢などの症状を引き起こします。

## ○ヨーネ病から守るために以下のことに注意しましょう。

- ・子牛は、成牛の糞便や汚染物と接触しないように注意しましょう。
- ・牛舎内は、定期的に清掃、洗浄、消毒を実施しましょう。  
特に、分娩房を清潔に保つようお願いします。
- ・初乳は加熱処理もしくは初乳製剤を給与しましょう。

(例)初乳加熱処理:63～65度 30分殺菌処理 (ビタミン・ミネラルのほとんどは加熱の影響を受けません。)

## ○ヨーネ病を撲滅するために。

- ・ワクチンや治療法はないため、定期的な検査により感染牛を早期に発見、淘汰することが重要です。県では、定期的に家畜伝染予防法に基づく検査を実施しており、今年度は当所管内では、富士河口湖町で実施しています。

## ○他の農場から牛を導入する場合は。

- ・農場への侵入防止のため、清浄農場から導入しましょう。
- ・導入後は、導入牛検査を受け、検査結果が明らかになるまでは導入した牛を隔離飼育しましょう。

※家畜保健衛生所では、導入牛検査を実施していますので  
お気軽にご相談ください。(ヨーネ病検査:240円/頭)

ヨーネ病の消毒薬について(裏面をご確認ください)

異状をみつけた場合には直ちに診療獣医師又は  
山梨県東部家畜保健衛生所まで

電話・・・055-262-3166 FAX・・・055-262-3108

夜間、土日・休日の連絡は・・・090-5535-8005・090-5544-7868

# ○ヨーネ病の消毒について

感染牛(物)の隔離と遮断、牛舎やウォーターカップ、通路などの清掃、殺菌消毒が重要となります。

ヨーネ菌に有効な消毒薬は消石灰、塩素剤、クレゾール剤、アルデヒド製剤で、アルコール、逆性石鹼は効果がありません。

また、熱に比較的弱いため、牛の糞尿などは十分に切り返しを行い、65℃以上で発酵させてください。

## ■各種消毒薬のヨーネ菌に対する消毒効果

液性	消毒薬	抗酸菌 (ヨーネ菌等)	金属 腐食性
酸性	塩素剤	○	腐食 しやすい
	ヨウ素剤	○	
アルカリ系	アルデヒド系	○	腐食 しにくい
	水酸化ナトリウム添加	○	
	石灰	○	
	逆性石鹼	×	
中性	アルコール	×	腐食 しにくい
	オルソ剤	○	腐食 しやすい

【消毒効果】 ○効果あり ×効果なし